

生活用水における 水使用実態 について教えてください

Answer

1. はじめに

将来にわたり安定的かつ効率的な水道事業運営を行うためには、生活用水、都市活動用水、工場用水といった用途別に、水使用実態を適宜、適切に把握することが必要です。

本稿では、その事例として、東京都水道局で実施したお客さまへのアンケート調査やモニター調査の結果等から分析した、生活用水の水使用実態を報告します。

2. 生活用水における使用水量の推移

東京都における一人一日当たりの生活用水使用水量（以下、生活用水原単位）は、平成10年度の248Lをピークに減少傾向が続き、令和元年度には213Lと、ピーク時から一割以上減少しています。（なお、この間、人口増加の影響で、全体水量は概ね横ばいで推移しています。）

しかし令和2年度には、一転して225Lに増加しました。これはコロナ禍によるステイホーム等の影響と考えられ、実際にコロナ禍前後の家庭での水使用行動に関して、アンケート調査の結果をもとに分析した結果、「洗濯回数の増加」及び「夕食調理回数の増加」が、生活用水原単位の増加の要因となったと想定しています。

令和3年度以降、この数字は再び減少傾向となり、令和5年度には212Lと、令和元年度と同じ水準まで戻りました。このことから、コロナ禍による生活用水原単位への影響は、現在までにほぼなくなっていると考えられます。

3. 世帯人員による生活用水使用水量の違い

生活用水の使用水量は、世帯人員が大きく影響します。令和2年度のアンケート調査で回答をいただいたお客さまの使用水量を分析した結果、世帯人員別の使用水量は表1の通りとなり、世帯

人員が多くなるほど、各世帯における使用水量は大きくなります。一方、一人当たりには換算すると、風呂などの共有によるスケールメリットが働くことで、世帯人員が多くなるほど、生活用水原単位は小さくなっています。

表1 世帯人員別の生活用水の使用水量（令和2年度調査）

世帯人員	一カ月当たりの使用水量	生活用水原単位
1人	8.1 m ³	266 L
2人	14.9 m ³	243 L
3人	19.9 m ³	218 L
4人	23.1 m ³	189 L
5人	27.8 m ³	183 L
6人以上	34.1 m ³	—

4. 家庭での水の使われ方

家庭における目的別の使用水量は、モニターを選定し、ご協力を得て、これまで調査を行ってきました。最近では、令和3年度に調査を行っており、その結果は図1の通り、風呂に43%と最も多く使用されており、次いでトイレが20%、洗濯が16%という結果となっています。

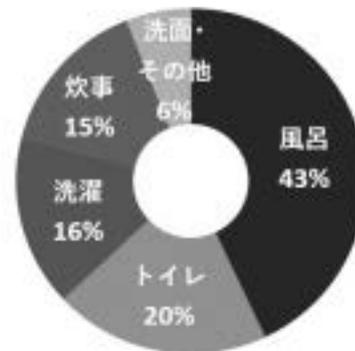


図1 家庭での水の使われ方（令和3年度調査）

なお、平成24年度及び平成27年度のモニター調査においても、各目的の使用水量の割合は、概ね同じような結果となっています。

5. おわりに

水使用実態は、ライフスタイル、社会経済状況、気候変動等、様々な要因により変動するため、水使用に関するデータを蓄積し、調査研究を重ね、その動向を分析していくことが重要です。

（出典：水道技術ジャーナル2025年1月）